

音楽とは 横への感性なり！

合唱団ホームページアドレス <https://www.wiengifu.org>

12月号

2020年12月1日

編集・発行

ウィーン岐阜合唱団

「あれから半年経ちました」 あれからシリーズ第2弾 岐阜テノール 垣見 育男

入団して1年の今年3月に合唱団ニュース（7月号掲載）に投稿し、その後7か月間の休みを経て11月5日に復帰すると、またまた天の声「15日を目途に原稿をお願いしますか。遅れても構いませんので…是非！」と優しいお言葉。顔をひくひくさせながら、にっこり笑って「承知しました」と言ったが一大事。なんとかせねば。この世界の危機と原稿依頼の困り事をチャンスと捉え、2020年に私が何をやってたか、何に怯え、怖れていたかを記憶ではなく、団の冊子に記録として残していただこう。そこで、手と喉と胃をアルコールで洗浄しながら、液晶画面を睨みつつツーフィンガーでキーボードとバトル開始。

気分は Dm⇒E7⇒A へ。

第一章 この半年、何をしていたか

春から出張や研修会の自粛。個人的には会合や外出を減らし、合唱の練習参加も断念。そこで、家庭菜園に没頭することにした。しかし、今年の“カラス”の“黒の攻撃”は凄かった。防鳥ネットの防御もむなしく、イチジク、トウモロコシ、柿の初なりから、そして美味しそうな物から取られ、全くの惨敗。東京ドーム1/10程の農地をせめて農作放棄地までに留めようと、夏草の緑の攻撃に抵抗を試みた。トラクターによる草の埋め込みで、決戦は日曜日。結果は引き分けで、来年再試合。合唱復帰にそなえ、トラクターに乗りながらイヤホンで音取り。しかし、何かが違う。早春の頃の畑打のように大地に深く響くバリトンの声が欲しい。初夏の頃の陽光のように光合成を促すソプラノの声に導かれたい。盛夏の頃の喜雨のように草木を潤すアルトの声に包まれたい。一緒に歌いたい。合わせたい。

そうか“音楽とは横への感性なり” そうだ！長森へ行こう！

第二章 何に怯え、怖れていたか

今年の春、県内の合唱団で集団感染、クラスター発生。“3密”注意とニュースが飛び交った。その頃、私は、感染に怯え怖れていたか、死に至る恐怖を覚えていたかということ、そうでもなかった。もし、私が会社で最初の感染者だったら、会社人として社内で迷惑者になることへの怯え、社会人として責任を持った行動をしてない、又はそう思われる怯え、そして、その責任をとって退職を選ぶ怖れであった。一方、このくらいは大丈夫と根拠のない判断で行動し、運よく感染しなくても、やった事を後悔するという、自分の曖昧さと情けなさを悔やむ怖れで、私の心はどす黒くなるばかり。お盆に三部経を聞きながら“ひとはパンとワインのみにいきるものにあらず”を思い出した。これからはコロナウィルスを理解し、正しく対応しながら、文化芸術とも触れ合おう。それでも感染したら“自分の立場を考え進退を決断する”と自分なりの覚悟を決めたら、自分の怯え怖れを受け入れることができた。そして、申し訳ない気持ちで会場に向かい練習復帰した日、平光マエストロから「これ新しい曲の楽譜です。」と手渡された曲名が、なんと“からす”。

トラクターのシートで、違和感を持ちながらも練習してきた曲と違うではないか。

私を悩ませるのは、ここでも「からす」か。

今年の漢字は「密」ではなく「鳥」、いや、ガーガー鳴くので「鴉」

第 12 回 プロオーケストラとの夢の協演 を聴いて

(～協奏曲・声楽・ブルグミュラー～)

岐阜 ソプラノ 赤堀 みどり

演奏された子供たちが、とてもイキイキしていたことが、とても印象的でした。
ピアノに向かう姿勢がとても楽しそうで、思わず応援したい気持ちになりました。

和田紋加先生のシューマンの“ピアノ協奏曲”も凄い迫力で、
久しぶりの生コンサートを聴き、楽しく充実した時間を
過ごさせていただきました。



Sanctus (感謝の讃歌)

岐阜 アルト 宮本 多江

2020 年 10 月 1 日(木)から、全員が 18 : 30 に集合出来るようになりました。この日は、中秋の名月。十五夜のお月さまが応援してくれているようでした。

平光先生、執行部の皆さまの厳密なコロナ対策に心より感謝いたします。練習会場は、ピリピリした感じではなく、手作りのコロナ対策グッズに心温まる思いです。伴先生や前半 A グループの皆さまとは、7 か月ぶりの再会でした。皆さまお元気そうで、嬉しくなりました。伴先生は、「7 か月ぶりです。浦島太郎です。浦島太郎ですが、7 か月前のまま、いやむしろ私は若返っている！」と。元気はつらつな伴先生に、元気をいただきました。

私は入団して、ちょうど丸 3 年経ちました。夏・冬の定期演奏会、サントリー 1 万人の第九 2018、ねんりんピック岐阜 2020 開催前イベント「岐阜県民の歌」、飛騨高山 2019 千人の第九と本当に貴重な経験をさせていただいております。3 年前、疲れ切った心と体の状態で入団した私でしたが、こうして今がありますのも、先生はじめ皆さまのおかげだと感謝しております。昨年(令和元年)、職場の忘年会で、同僚とともに、第九をハンドベル演奏いたしました。演奏と申しましても、8 音ハンドベルで、“ミミファソ ソファミレ ドドレミ ミ～レレ～♪ミミファソ ソファミレ ドドレミレ～ドド～♪”のみですが…。

それから、ディズニーの「虹の彼方に」を参加者全員で歌いました。

♪～ “*And the dreams that you dare to dream really do come true*” ♪～

日々色々とある職場ではありますが、この時ばかりは心がひとつになっていると感じました。音楽って本当に素晴らしいですね！(いい職場です。念のため)

今練習しているモーツァルトの「戴冠ミサ」はラテン語の曲です。これで私は、ドイツ語、リトアニア語、英語、フランス語、イタリア語、日本語、ラテン語と **7 言語**の合唱曲を歌ったことになります。私にとりましては本当にすごい事です。今後ともご指導よろしく願いいたします。

Hosanna in excelsis

いと高きところにオザンナ(お救いください)

Dona nobis pacem

私たちに永遠の平安をお与えください

母や叔父がお世話になっている高齢者向けの施設は、今も面会禁止が続いています。
一日も早いコロナ禍の終息を祈るばかりです。



リトアニア・ポーランド音楽紀行♪3♪ (2018.5/23-6/2) 川 浪 進

5/27 早朝、また、街のスケッチ。今日はこの旅の第一の目的、第九本番の日だ。5時より、コンサート開始。第九の他に平光氏の作品やオペラの曲が演奏された。合唱には地元の合唱団が加わり、その迫力たるや圧倒的で、さすが、合唱の国だけの事はある。日本から見たら、参加させて頂いていると言った趣か。日本からのソプラノ、メゾソプラノのソロも良く声を通る。地元テノールバリトンのソロも深々として、申し分ない。終わって、なんと、スタンディングオベーションだ。こんな、海外旅行なんて、滅多に経験することはできない。学生時代にオケでやったことをはるかに思い出して感慨深い。何年たってもベートーヴェンは新鮮で、すたれない。

ところで、200年の昔に話は飛ぶが、ベートーヴェンは、初演の時、指揮したが、既に聴覚は失われていて、聴衆の喝采に気づかなかったと言う。また、ベートーヴェンの部屋で、ピアノの足元を見ると、食いさしの食器の傍には、便器も置かれていたと言う。彼は入浴なんてしたのだろうか、パンツ替えたのだろうか。言語を絶しむせかえるような部屋で、どっち向いて“エリーゼのために”なんか作曲したんだろう、どんな顔してあの美しい“田園”を書いたのだろう。ピアノをかかえて引っ越し魔だったなんて、なんか、悲しいような、切ないような。

終演後、ホテルで日本大使始め地元名士も加わって、懇親打ち上げパーティー。

5/28 また、早朝のカウナスの街を写生。あちこちに教会があり、縦横にトロリーバスが走って、どこで、どっち向いても絵になる。

街が絵に描いてくれと言っている。

一体、こんな所が日本にはあるだろうか。我が国はGDPで断然勝っているじゃないかと言っても、何の自慢にもならない。

この朝、どう見ても廃屋としか思えない家の前に陣取って絵を描いていたら、なんとその廃屋から勤に行くとおぼしき娘さんが出て来たのには魂消た。この国は美男美女の輸出国とは言うけれど、この女性も例外ではなかった。何処からでも美人が浸み出してくる。油断も隙もない。しかし、廃屋と美女…なんたるアンバランス。

廃屋が 美女を吐き出し 春うらら
(むりやり季語をはめ込んだ)

市内観光。杉原千畝記念館へ。メトロポリスホテルで昼食。もう、食いもん期待するのは止めにした。リネンショップで土産品買い物。夕刻、少年合唱団 Varplis との合唱コンサートと交流会。

5/29 早朝のカウナスの街をスケッチ。どこからでも、セントミカエルの塔がみる。



5/28 Kaunas 新市街

次回新年号はいよいよポーランドの旅…お楽しみに!!

12月～1月練習予定

12月の練習時間は18:45～20:30です(18:30までに集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
12 月 3 日(木)	長森コミュニティーセンター	12 月 4 日(金)	大垣市南地区センター
12 月 10 日(木)	長森コミュニティーセンター	12 月 11 日(金)	大垣市南地区センター
12 月 13 日(日)	岐阜・大垣合同強化練習	長森コミュニティーセンター 13:30～16:30	
12 月 17 日(木)	長森コミュニティーセンター	12 月 18 日(金)	大垣市南地区センター
12 月 24 日(木)	長森コミュニティーセンター	12 月 25 日(金)	大垣市南地区センター
12 月 27 日(日)	岐阜・大垣合同強化練習	長森コミュニティーセンター 13:30～16:30	
1 月 7 日(木)	長森コミュニティーセンター	1 月 8 日(金)	大垣市南地区センター
1 月 10 日(日)	岐阜・大垣合同強化練習	大垣北地区センター 13:30～16:30	
1 月 14 日(木)	長森コミュニティーセンター	1 月 15 日(金)	大垣市南地区センター
1 月 17 日(日)	岐阜・大垣合同強化練習	長森コミュニティーセンター 13:30～16:30	
1 月 21 日(木)	ニューイヤーコンサート サラマンカホール 18:30 開演 (18:00 開場)		
1 月 28 日(木)	長森コミュニティーセンター	12 月 29 日(金)	大垣市南地区センター

☆ 練習時間等、変更になる場合がありますので、ご注意ください。



第10回 ヨーロッパ 音楽・友好の旅

2021年6月25日(金)～7月6日(火)・12日間

ウィーン～ マリボル～ ブレッド～ ハルシュタット～ ザルツブルグ～ ミュンヘン

1年延期にしておりました第10回の「音楽・友好の旅」、今回は毎回の“第九”の代わりに世界の合唱の仲間が集う「音楽祭」に参加します。

今回の旅は、音楽の都ウィーンでのオペラ・バレエ鑑賞、姉妹区での交流会、ベートーヴェンやモーツァルトゆかりの地、ブレッドやハルシュタットの湖畔の町、サウンド・オブ・ミュージックの舞台など、盛り沢山となっています。中でも特筆すべきはモーツァルトの生地ザルツブルグでの「国際合唱フェスティバル」です。世界の一流演奏家が集うモーツァルテウム大ホールでのコンサート出演、モーツァルトも訪れていた大聖堂での「戴冠ミサ」の演奏、ミラベル庭園での野外コンサートなど、これらの経験は必ずや皆様の人生において大きな金字塔となることでしょう。

また、スロヴェニアはスイスのように山と湖と、中世の面影を残すメルヘンチックな知られざる魅力を秘めた美しい国です。私の最も尊敬する伝説の指揮者、カルロス・クライバーの記念館を訪ねるのも楽しみです。道中の折々にクライバーの魅力をいろいろと話したいと思っています。

この記念すべき第10回の「音楽・友好の旅」に、皆様のご参加をお待ちしております。

この記念すべき第10回の「音楽・友好の旅」に、皆様のご参加をお待ちしております。

ウィーン岐阜合唱団／管弦楽団 音楽総監督 平光 保

